

年平均気温とアイスクリームの年間消費金額の相関関係
高千代紗都子(221x111x)

1. Introduction

アイスクリームといえば夏のスイーツの代名詞といえる。もちろん夏に限らず冬に食べることもあるだろうが、基本的には気温の高い日に食べる物である、というイメージが浸透しているのではないか。では、日本の中で気温の高い九州・沖縄地方ではアイスクリームの消費量が多く、気温の低い北海道・東北地方では消費量が多いのか。この論文では、各都道府県の年平均気温とアイスクリームの年間消費金額の相関関係について考察する。

2. Method

調査は 2019 年度を対象とし、気象庁のホームページから都道府県庁所在地の年平均気温、総務省統計局のホームページから一世帯あたりのアイスクリームの年間消費金額についてのデータを取得した。得られたデータを、値が大きいほど色が濃くなるよう日本地図の各都道府県を色付けすることで可視化した。

3. Result

Fig 1, 2 から読み取れるように、温暖な地域であればアイスクリームの消費金額が増えるということはなく、むしろ九州・沖縄地方は全体的に年間消費金額が少ないという結果が得られた。特に沖縄県は年間消費金額が全国最下位であった。北海道・東北地方についても同様に、年平均気温は低いものの、アイスクリームの消費金額は全体的に高い。

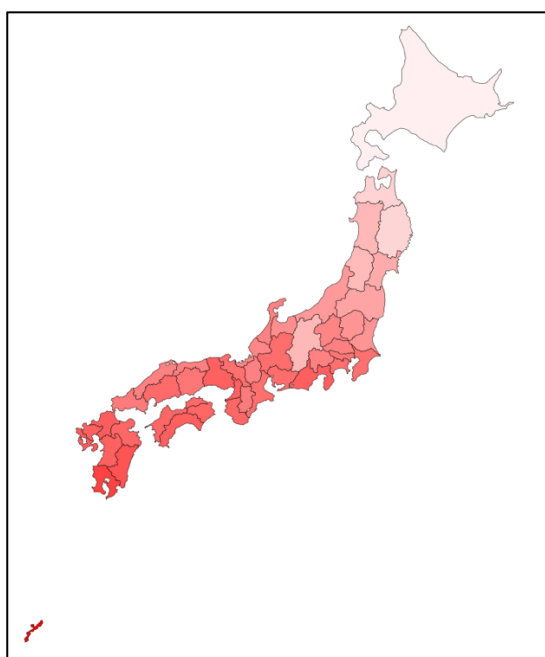


Fig 1. 年平均気温(2019)

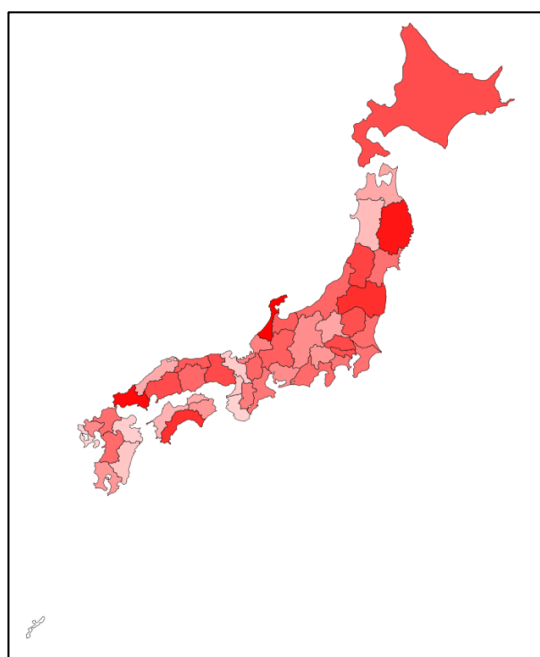


Fig 2. アイスクリームの年間消費金額(2019)

4. Discussion

前述の結果から、年平均気温の高い地域ではアイスクリームの消費金額が少ないということが分かった。そのため、気温が高すぎるとアイスクリームの購買意欲は損なわれ、九州・沖縄地方の年平均気温よりも少し寒冷な気温帯の方がアイスクリームを購入しやすくなると考えられる。この仮説を検証するためには年平均気温ではなく、年間を通してのより詳細な気温変化と照らし合わせる必要がある。

また、今回は取得することができた 2019 年度のデータを用いている。より直近のデータを使う、数年分のデータを統合するなど工夫することで、異なる結果が得られる可能性がある。そして、アイスクリームの消費量を一世帯あたりの年間消費金額という形で表している。しかし地域によって物価に違いがあり、消費金額と消費量には差が生じる可能性がある。そのため、より正確な結果を得るためには消費量を調査する必要がある。

5. Conclusion

各都道府県の年平均気温とアイスクリームの年間消費金額を可視化することで、それらの相関関係について調べた。より正確な結果を得るためには使用するデータについて吟味する必要がある。

6. Reference

気象庁

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html> (2022/6/12 参照)

総務省統計局

<https://www.stat.go.jp/index.html> (2022/6/12 参照)